

平成22年度 第4回市民活動サポートセンター運営委員会 会議概要

平成23年2月17日（木）18:30～20:00

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 11名…井上、小野、河村、木曾、永島、佐倉、鷹野、根本、前川、増田、渡辺
事務局 1名…市民生活課 山口
指定管理者 2名…NPO法人YMCAコミュニティサポート 高橋、小澤
傍聴者 0名

1 報告事項

(1) 平成22年度第3回運営委員会議事録について

前回の運営委員会の後、委員の方に議事録を送り承認を得ているので、今回は資料として添付しなかったが、今回は間が空くため（23年5月26日）添付することを説明した。

[意見概要]

1-(2) 利用状況・利用者の声について

(指定管理者)

- ・年間利用者数は昨年比で順調に増加している。
- ・団体数としては1月、2月は昨年より少なかったが、他は増え続けている。
- ・今までと違い、日曜日の夜が増えた。・ホームページアップ支援をあまり強く打ち出していないため、なかなかできていないのが気になる。
- ・活動紹介コーナーは、空きがあったらこちらから声をかけてできるだけ予定を埋めていくことにしている。
- ・結果は出てきたが、まだ一般の方がこれを目当てに来ているという状況ではない。
- ・「貝山地下壕保存する会」の活動紹介は見学の人が大勢だった。
- ・こんな感じにできればいいと考える。・来年度の課題としたい。
- ・インターネットが遅いという利用者の声は丁度アップデートに重なったようだが、ネット環境、パソコンの機種も古いのでこのような声はこれからも出てくるかもしれない。
- ・いずれ根本的な解決をしなくてはと思っている。

(市民生活課)

- ・久里浜・追浜の利用状況について、久里浜・追浜地区の町内会に利用を促すダイレクトメールを年明けに送ったが、利用が少ないのもっとPRに努めていきたい。

1-(3)のたろんフェア2011について

(指定管理者)

- ・2月12日（土）13日（日）に開催された。参加団体は66団体。2日間合計で5,680名の来場者。団体のアンケート集計はこれからで、詳細は2月25日（金）の「のたろんフェア2011参加団体報告会」の後で報告したい。

1-(4) 平成23年度ロッカー・レターケースの申請について

(指定管理者)

- ・今年も大ロッカー48台、小ロッカー72台（有料）の平成23年4月1日～平成24年3月31日の使用申請を3月1日～3月20日まで受付ける。
- ・今年の変更点は交流サロンに逸見行政センターより寄贈された15個タイプのコインロッカーがあ

るのだが、これを一時預かりロッカーとして使う。

- ・今まで一時預かりロッカーとして使っていた 6 個を中ロッカーとして落選した団体にお勧めしたい。

1-(5) 運営委員会の改選について

(事務局)

- ・運営委員応募についての説明。

1-(6) 平成 23 年度運営委員会開催日時について

(事務局)

- ・今までの運営委員会の日程である第 3 木曜日は、最新の情報を載せるにはスケジュールが厳しい。
- ・委員長との打ち合わせによって次第・資料等が決まり、その後運営委員会の 1 週間前に委員の皆さんに資料をお届けするので、毎月第 4 木曜日に設定した。

ここまででの質問

(運営委員)

ホームページアップ支援の件数がゼロというのはどういうことか？

(指定管理者)

- ・現状では、直接手取り足とりホームページを作成する手伝いをサポートセンターのスタッフがしているということはないが、ホームページ作成に詳しいスタッフがいるので、それを知っている人が窓口で相談にくることはよくある。
- ・それを含めればゼロではない。本来はそれもカウントしなくてはならないと思う。
- ・サポートセンターの役割としてもっと積極的に踏み込んだ支援をやるべきだと思うが、現実はまだそこまでいっていない。
- ・今年 1 月にのたろんフェアの参加団体を対象にしたコマーシャル映像をつくる講座を NPO の講師を招いて行なったが、それもホームページアップ支援として数えなくてはならなかったのかもしれない。
- ・そのカウントの方法を決めていなかったことと、まだこちらのホームページアップ支援の体制が整っていないという 2 点が原因でゼロが続いてしまった。
- ・今後はスタッフ間でカウントの仕方を確認し、ホームページの立ち上げについて講習会を開く等窓口で相談を受け付けることを周知したりすることが必要だと思う。
- ・しかし、対応できる職員に限られるという問題がある。

(運営委員)

- ・自分の団体でも今（ホームページ作成を）勉強しているところだが、まだよく分からないところもあるので、できればサポートをして頂きたいと考えている。

(運営委員)

- ・自分の知っている団体も自分の団体も、ホームページを専用のソフトウェアを使わずにタグ打ちで作っている。
- ・簡単なものなら、レイアウトで中身だけ入れかえる（他の団体のホームページにする）ことは可能かと思う。
- ・何台かパソコンがあればアップロードについても環境を疑似体験することが可能かもしれない。

(指定管理者)

- ・そういうこともあると思う。
- ・今言及された「タグ打ち」のことでも、ある程度技術があり、人に教えられるくらいの方ではなく

て、一般のボランティアやNPOの方でパソコン初心者がまったく知識がないけどホームページを作りたいという場合もある。そのような場合の支援の難しさもある。

- ・ホームページではなくブログからやりたいという人もいる。
- ・そのような技術の多様化の中でどのような支援ができるのか、サポートセンターとしては考えなくてはならない。

(運営委員)

- ・ホームページの中身もどの程度まで掘り下げるのかという問題もある。
- ・非常に凝ったものもあれば、ブログをすこし工夫したようなものもある。
- ・凝れば凝るほど高い技術が必要で、線引きをどこにするのかだ。

(運営委員)

しかし、最初に支援を求めている人達は基礎的なところを求めているのではないか。

(運営委員)

現在、その基礎的なところを7～8回に分けて今教わっているところだが、具体的にやるとなるとちょっとした工夫が必要だ。

(指定管理者)

やはりそのような要望も多様化しているので、講座を開講するのが順当かと考えている。コマーシャルの講座は6団体に受けてもらったが、非常に好評だった。

(運営委員)

(受講したが) あればホームページ作成に比べれば簡単だった。

(運営委員)

やはりどのようなレベルのホームページ作成をするかが問題だ。

(運営委員)

- ・今のスタッフでこの支援をするとなると、スケジュールやニーズの問題もいろいろあるので、それに応えながら支援するというのは簡単なようで難しい。
- ・日程・時間を調整し、スケジュール化してサポートできるように計画してほしい。

(指定管理者)

もう一度考え直したいと思う。

(運営委員)

- ・(講座の) 程度やレベルを決めてくれたほうが、受ける側にも良い。
- ・基礎的なもので良いと思う。
- ・凝ったものはフリープラン講座でやったら良い。
- ・「サポート」というのは最初だけで、後は次のレベルとして「オーダー (注文)」になる。
- ・その辺の切り分けをはっきりしたら良いと思う。

(運営委員)

- ・各団体はニーズとしてはあると思う。
- ・しかし、せっかく立ち上げたホームページを定期的に更新しようという人があまりいない。
- ・出来たことで安心してしまう人も多いのでその辺のフォローも必要だ。

- ・この後、資料の表の数字についての質問があり、次回からは資料1のDB内容のまとめの表はなしひとつにまとめることになった。

活動紹介コーナーについて

(指定管理者)

- ・活動紹介コーナー利用促進についてのアイデアを伺いたい。
- ・担当者は努力しているが、外から一般の方が見に来てくれるようにしたい。
- ・良い企画なので「これを見に来てほしい」と思って見に来てくれる方が増えると嬉しい。
- ・それを機会に市民活動に触れるようになってほしい。

(運営委員)

市役所に掲示は出せないのか。

(事務局)

それは難しい。

(運営委員)

そうすると市民活動サポートセンターの入口に掲示するくらいか。

(運営委員)

情報広場にも載っている。

(運営委員)

- ・自分が活動紹介コーナーを使用した時には、特定の地域向けだったのでその地域にチラシを配布した。
- ・範囲が大きくなれば、どこに重点をおくのが絞れず難しい。

(運営委員)

- ・了解がどの程度とれるか分からないが、以前自主講座をやった時にスーパーに掲示を貼ってもらった。
- ・公益性の高いものは貼ってもらえる。コンビニエンスストアも一部良いと言ってくれるので利用したらどうか。

(指定管理者)

銀行、地域の掲示板もよくある。

(運営委員)

- ・一番間違いないのはコミュニティーセンターだ。
- ・まなびかん、ボランティアセンターもある。
- ・お互いに講座などの掲示をし合うのはどうか。
- ・その都度は大変なので1か月単位でやったらどうか。

(事務局)

- ・展示コーナーから活動紹介コーナーに名称を変えた経緯は、通りであって誰でも見られる掲示版のようなものではなく、自分達が今、こういう形で活動をしているのだという紹介をするものであるということからだった。
- ・サポートセンターの登録団体が対象なので、数も限られてくる。
- ・いつも新しい展示をとというのは難しいかもしれない。
- ・しかし市民活動を知ってもらうためにはまず人に見てもらうことや新しい人に関心を持ってもらうことが大切だ。
- ・活動紹介コーナーという名称ならば、単なる展示をするだけではないものにしてほしい。

(運営委員)

- ・2週間展示した結果のフォローは何かあるのか？（例えば情報紙にこんな形で展示されました、という写真が載るなど）
- ・紙面に限りがあるので難しいだろうか。
- ・認知度は低くても、見た人は展示の方法の参考になるし敷居が低くなる効果があるのではないだろうか。
- ・展示をするとなると、準備も含めそれなりの労力がある。
- ・それぞれ団体によって規模も違う。
- ・例えば、小さいところはパネル1枚のところもあったかもしれないが、それでも活動紹介になるのだと分かってもらえるという利点もある。
- ・一つの手助けになるのではないか。

(指定管理者)

ホームページなら情報が多く載せられるので、できそうだ。

(運営委員)

その意見に賛成である。事後の報告がないと何か分からないで終わってしまう。のたろんフェアの報告を慣例づけた例もある。事前に宣伝をして、終了後にはお礼と報告が必要だ。

(運営委員)

のたろんフェアのように大きい行事にはあるので、活動展示コーナーにもアフターフォローがあると良いと思う。

(運営委員)

質問だが、活動展示コーナーに来るお客が少ないのか、紹介する団体が少ないのか。

(指定管理者)

- ・紹介する団体が少なかったのだが、声をかけるとやってくれるようになった。
- ・やろうとすればできる団体が潜在的に多いと思われる。
- ・担当者がこまめに声をかけていけば、この先もずっと予定は埋まると思われる。
- ・折角素晴らしい活動紹介があるのだから、是非一般の方にも見に来て頂きたいという気持ちだ。
- ・それをきっかけにして市民活動に関心を持ってもらいたい。

(運営委員)

- ・登録団体以外の人には入りにくいということがどうしてもある。
- ・入りにくさがプラスにもマイナスにもなる。
- ・それは市民活動サポートセンターの一種の宿命でもあるのではないか。
- ・誰でもが入れないから質が高くなるとも言える。
- ・それとも、これからは誰でもが入りやすいサポートセンターに変わっていくのか、論議する必要がある。

(運営委員)

窓際のガラスのところにとくさんの飾りで目立たせることも、一般の方向けのPRのひとつで、今まではなかった。

(運営委員)

活動紹介をするときには入口に看板をだすことは可能か。

(指定管理者)

それは今も入口の2か所に出すようにしているのだが、小さいので大きくしないといけないと思っている。早急に拡大をスタッフ間で検討したい。

(運営委員)

- ・活動紹介コーナーの認知に関して、どのように市民活動を PR したら良いかというのは、永遠の課題だ。
- ・運営委員会でも必ず議論をしている。今回出たスーパーへの掲示やアフターフォローなどの意見を取り入れてやってみては？

(指定管理者)

良いアイデアをありがとうございました。これから変えていきたい。

(運営委員)

ちらしは作っているのか？まなびかんのようならしがあれば配布できる。朝配って帰りに寄ってもらうこともできる。

(指定管理者)

ちらしを作っているところもあるかもしれないが、サポートセンターとしては作っていない。

2 - (1) 市民公益活動団体について

(指定管理者)

横須賀市民ミュージカルを作る会 (SUKA ミュー) は代表者が変更になるとのことで再登録があるかと思われる。

(運営委員)

- ・「横須賀ハーモニカ愛好会」はボランティア活動として老人ホームに慰問をするということだったが何回慰問しているのか基準がないとのことで、公益判断の基準となる材料はやはり必要なのではないか。
- ・会員だけの親睦の団体ならば、まず公益ではないというところから始まって良いのではないか。
- ・同じ様に考えるならば、自主保育グループ「森のあそび場 てくてく」も自主保育グループというだけで公益だろうかという疑問がある。

(指定管理者)

- ・「横須賀ハーモニカ愛好会」は前段の「親睦」という部分では公益に思えないかもしれないが、老人ホームに慰問という活動実績があり、確かに回数をどう考えるかというのは大きな問題だと考えているが、今までの経緯では公益判断を出していたのでそれに倣った。
- ・「森のあそび場 てくてく」はちらし等の資料も出してもらっているが自主グループでありかつ広く一般の人も受け入れているということで公益判断をした。

(運営委員)

- ・趣味のグループが慰問に行っているというのは過去にも沢山例がある。
- ・しかし、慰問に行くことがどれくらいの重要度であるのか。慰問のための練習なのか、練習の合間にたまに行くぐらいなのか。
- ・一年に7, 8回なのか、1, 2回なのかで違ってくる。

(指定管理者)

難しいが、排除するためにあるのかそれとも活動を通してもっと幅を広げてほしいのかという問題だ。

(運営委員)

- ・排除ではなく、指導だと思っている。
- ・今どれくらい(公益活動である慰問等)に行っているのか聞いて、「たまに」という答なら公益活動であると言えるように活動の仕方をアドバイスしたら良い。
- ・受け付けの時点でそういう話をしていったら良いと思う。

(運営委員)

「フラワーキルトクラブ」は公益判断が出ていないが、「パッチワークキルトの研修」はどのくらいやっているのか。

(指定管理者)

この団体は出た資料が少なかった。

(運営委員)

この団体は公益ではないと思うが、出た資料や文章に（例え少ない回数の慰問などでも）行っていると書けば公益との判断が得られるというのは疑問だ。

(運営委員)

目的か手段かということが焦点になるのではないかと。慰問が目的で練習しているのかどうか。

(運営委員)

基本的な質問だが、公益判断が出るのと出ないのとでは何か違いがあるのか。

(指定管理者)

(汐入の) 市民活動サポートセンターの利用において、予約が出来るのかできないのかということになる。

(運営委員)

先にでた意見で、「目的か手段か」という話があったが、目的ならば当然年間計画があるはずで、その書類が出せるかが一つの判断基準になるのではないかと。

(指定管理者)

こちらの気持ちとしては、年に一回でも二回でもいいので市民活動の場に出て行って、活動を広げてほしいと思うので、あまり厳しくするのはいかがなものか。

(運営委員)

書類で枠を決めていくというのではなく、目的意識を持ってもらうために、目標を立てるという意味での年間計画の提案だ。

(運営委員)

やりたいと言うならば、「何月にやりたい」などの希望があると思う。それを書くことが負担だということもおかしい。細かい日程や予算書でなくても、大まかな予定が良い。

(運営委員)

練習日などが決められるように、慰問等の日も同じレベルで決めてもらいたい。

(指定管理者)

書類の中で「この日にやろう」というのを出してもらうということなら分かる。

(運営委員)

登録申込の時に予定も出してもらうのはどうか。

(運営委員)

- ・自分の団体は再登録のときに年間計画と予算書を出した覚えがある。
- ・最初の登録の時に公益がでなくても、活動する中で公益活動を始めたならまた再登録してもらえば良い。
- ・「横須賀フラ協会」などは年に2回のチャリティーイベントをしているから公益判断が出ているが、計画が出ているから公益としてもよいと思う。

(指定管理者)

今の公益判断の問題は長く議論になっているようなので、どこかで筋道を決めないといけないと思う。また次年度の運営委員会などで意見を頂いて文書化できればと思う。

(運営委員)

質問だが、公益判断は登録申込の時点では決めないということだが、どのくらいの期間をおいて判断しているのか。

(指定管理者)

- ・原則はこの運営委員会で決定するので、仮になるが、実際は申込み一週間ほどで出している。
- ・以前にも出た議論だが、仮決定という形で出しておく方が良いとなった。
- ・それもひとつのアイデアだと思うが、まだ文書として決めた事項ではない。

(運営委員)

実際には年に4回しかない運営委員会で決定するのは期間が長すぎるので、指定管理者の決定と運営委員会の決定にギャップが生まれないようにしたい。

(運営委員)

- ・一度公益判断を仮決定したのに取り消すのは良くないので、ちょっと待っていてもらえば良いのではないか。
- ・委員長、副委員長と市で話し合っただけで決定したら良いと思うが、少し気になったのは「神奈川県介護福祉士会 三浦・横須賀地区」はこの運営委員会の決定を待たずにのたろんフェアに参加したことになり、この運営委員会の立場がない。
- ・今回決定した「フォトフレンズ」も活動紹介コーナーを使っていて同じことが言える。もう少し運営委員会を大事にして頂ければと思う。

・この後、委員長が承諾すれば良いという意見や、それでは事後承諾で良くないという意見が出た。

(指定管理者)

年4回の運営委員会に合わせてというのはなかなか難しいので、これからルール作りをしていきたい。

(運営委員)

市民の方から見て適正な市民活動サポートセンターのあり方を考えた方が良い。
委員が顔を合わせて話し合えなくても、情報を伝達して公益判断を出せるような方法を考えた方が良いのではないか。

(運営委員)

(決まりがない状況で)強く言われたからと公益を出すようなことがあってはならない。
今回の「のたろんフェア」の件はのたろんフェア2011実行委員会が決めることであったのかも
しれないとは思いますが、きちんと決めたほうが良い。

3 - (1) 意見交換会について

- ・来月は意見交換会を開くかどうか話し合った。

(指定管理者)

是非聞いて頂けるとありがたい。

(運営委員)

意見交換会の意味づけは何か。ただ話し合ったり、顔を合わせたりするだけで、ただ意見を交換してそれが何かに発展するというのでもないなら何回も開く意味はないのではないか。

(事務局)

- ・意見交換会は議事録を作らないのが決まりの会議で、運営委員会のように前回の議事録確認や利用状況の報告もない。
- ・報告事項で1時間くらい経ってしまう。
- ・これ以外に運営委員として話し合うことがあるのではないかという趣旨で意見交換会がある。
- ・必ずやるものでもないので、毎回開催するかどうかを話し合っている。

(運営委員)

自分は思いつきの発言でなにか形になるようなことが出れば良い、という気持ちで毎回出席している。

結果、何も形になっていないかもしれないが。

(運営委員)

この間、市長も仰っていたが、お互いの意見を聞くことに意味があると思う。しかし、それが無意味だということも一つの意見だ。

- ・開催することに大方の賛同を得たので次回は3月24日(木)18時30分からに決定した。

館長より

- ・コミュニティビジネスに関する講座「市民協働推進の集い」のお知らせがあった。
- ・サポートセンターでこれからの計画していることなのだが、人手が限られるので色々な方に助けて頂きたい。
- ・市民活動サポートセンターに詳しく、市民活動の経験もある方に団体間でのネットワークを作ったり、コーディネートをしたりというお手伝いをして頂きたい。
- ・今回、運営委員の任期を終えられる方に引き続きサポートセンターに関わってほしいと考えている。

(運営委員)

- ・新しい会を立ち上げた。
- ・デジカメはあり、簡単に取れるがなかなか良い写真が撮れないという団体の悩み、広報やホームページに載せる写真を撮ってほしいという要望が沢山ある。
- ・自分ひとりでやっていたが、今回発想の転換をして各団体の広報担当の方に会員になってもらってその人達に良い写真を撮れるようになってもらうことにした。
- ・写真だけではなく、広報関係でパソコンも勉強する会にしたい。皆さんにもご協力をお願いしたい。

以上